



ミャンマーの子供病院建設に

AMD Aの医師の診察を受ける幼児。ミャンマーの幼い命を救う子供の病院建設を、明美ちゃん基金が支援する。メッティラ地区のアレイワ村（前川純一郎撮影）

先天性の心臓病などの子供を救う産経新聞提唱の「明美ちゃん基金」が、ミャンマーでの子供の病院建設プロジェクトに適用されることが二十一日、決まった。計画は国連NGO「AMD A」（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）が進めているもので、基金の対象が発展途上国で難病に苦しむ子供たちの医療支援にも拡大された後の適用第一号となった。

明美ちゃん基金 支援拡大適用第1号

基金から一千万円を拠出、病院建設費用として役立てられる。



「ミャンマー子ども病院」は、同国中部のメッティラ地区にある保健省所管のメッティラ病院に併

設して建設され、一般病室のほか集中治療室、新生児室、遊戯室など約二十室を設ける。十一月二十日に起工式が行われ、来年末に完成の予定。

常駐して診療にあたるほか、ミャンマー人医師、看護婦の養成機関としても期待されている。

AMD Aは日本人医師を派遣して巡回診療を行ってきたが、拠点となる小児病

病院建設・運営などのプロジェクト費用は約五千万円と見込まれる。明美ちゃん基金のほか、外務省の草の根無償資金協力からの拠出が決まっている。さらに、日本とミャンマー両国に支援委員会が作られ、募

を救うことができ、こうした人道援助はさらに両国の人間レベルのきずなを深めることにもつながると思い

AMD Aは昭和五十九年設立。世界二十一カ国に支部を持ち、フィリピン・ピナツボ火山噴火、インドネシア・スマトラ島南部地震や、最近では中米を襲ったハリケーンなどの被災地や紛争地域に医師を派遣して救援活動を展開している。平成七年には国連経済社会理事会登録の「国連NGO」（カテゴリーⅡ）に認められた。

（14、15面に特集）